

全共目指し雌牛選出 大農高、種付け後導入へ



牛に触って状態を確認する大曲農業高畜産部員

国内最大の和牛品評会・全和牛能力共進会（全共）への出場を目指す大曲農業高校に導入する雌牛の選出会が11日、大仙市の同校大嶋農場で開かれた。同校畜産部員14人

や全共出場を後押しするプロジェクトチームのメンバーらが参加し、候補の4頭から2頭を選んだ。県畜産試験場の担当者が選出のポイントなどを説明。部員が実際に牛に触ったり、体のパランスなどを見たりして状態を確認し、プロジェクトメンバーのアドバイスを受けながら2頭を選出した。

部長の梅津佳さん（3年）は「触ってみると牛の動きがなんとなく分かった。自分で育てていく牛なので、より慎重に選んだ」と振り返った。

今回選出した雌牛は県畜産試験場で種付けした後、同農場に導入される。生まれた子牛は育成や調教の練習に活用し、地元の共進会などにも出

場する予定。プロジェクトチームの代表を務めるJA秋田志ほこ畜産部会の高橋博志さんは「畜産いよ全共出場へ向けた第一歩。選んだ以上は覚悟を持って育ててほしい」とあいさつした。

全共は5年に1回開催。畜産部とプロジェクトチームは、2027年に開かれる北海道大会への出場を目指している。（川村優衣）